

目的 前報では、藍染色物と化学染料染色物の疲労による表面性状の変化を主に、光反射特性と走査電顕写真とから比較検討し、その変化傾向の差をとらえた。そこで、今回は、同一試料について視覚による官能検査により、両者の染色物の疲労による変化傾向の差を調べ、物性値との対応を行なった。

方法 綿ブロード如着を藍染色(濃・淡)と化学染料による染色を行ない、定伸長繰返し伸長(機械的疲労)と洗たく、日光曝露をそれぞれ一定条件で疲労処理として行ない、試料とした。官能検査としては、Schefféの対比較法別法(順序効果のない場合)を用い、官能量を好きな色、つやの大きさ、つやのよさ、なめらかさ、色のあじやかさ、色の明るさ、色の濃さ、色の深み、藍らしい色の9項目とし、視覚だけの判定で5段階評価で行なった。今回の被検者は女子大生16名である。

結果 つやの大きさ、表面のなめらかさは、藍染色物(淡)は処理による差が認められたが、化学染料染色物(淡)は差が認められない傾向で、疲労処理の大きいものほど藍染色物は、つやが小さく、よいつやではないことを判定している。また、色の深み、藍らしさ、好きな色についても、藍染色物(淡)の方が、化学染料染色物(淡)よりも疲労処理による差が大きい傾向で、藍染色物が化学染料染色物と比較して疲労処理による変化が大きいことが、視覚的にも認められたが、前報の物性値の変化傾向と対応している。